

水田土壌に有機物を長期連用することで、 精玄米重と玄米タンパク質含有率は増加する

【概要】

水田土壌に有機物（牛ふん堆肥又は稲わら）を施用することで、化学肥料のみで栽培した場合と比較して、精玄米重と玄米タンパク質含有率は増加します。

1 精玄米重、 m^2 籾数（一穂籾数 $\times m^2$ 穂数）、玄米タンパク質含有率、窒素吸収量は化学肥料のみで栽培した場合と比較して、有機物（牛ふん堆肥、稲わら）の施用により増加します。また、これらに与える影響は、牛ふん堆肥と比較して稲わらで大きい傾向にあります（図1）。

2 化学肥料のみを施用した場合と比較して、牛ふん堆肥の長期連用により出穂期以降の窒素吸収量が増加します。また、稲わらの長期連用は最高分けつ期～幼穂形成期、出穂期以降に窒素吸収量が増加します（図1）。

【試験データ等】

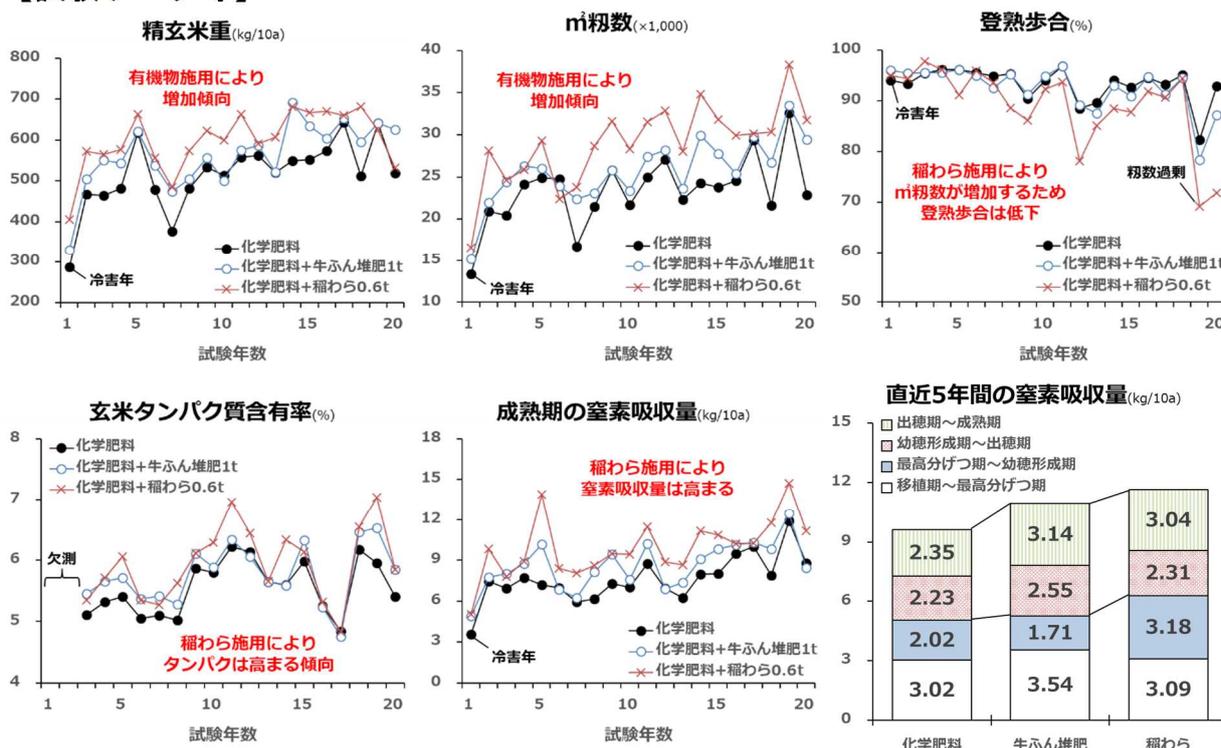


図1 水田土壌における有機物の長期連用が精玄米重、収量構成要素等に及ぼす影響

【試験条件】 供試品種：「ひとめぼれ」 基肥 $N-P_2O_5-K_2O=6-7-10$ kg/10a 追肥 $N-P_2O_5-K_2O=2-0-2$ kg/10a
 試験区①：化学肥料のみ（稲わら持ち出し） 試験区②：化学肥料+牛ふん堆肥1t 試験区③：化学肥料+稲わら0.6t

【令和6年度成果】 水田土壌における20年間の有機物長期連用が水稻の収量と玄米品質、窒素吸収パターンに及ぼす影響（R6-指-05）